

追悼の辞

商学部教授として、在職中にご逝去された赤羽新太郎先生の御霊に対し、商学部を代表して、ここに謹んで追悼の辞を捧げたく存じます。

赤羽新太郎先生、先生とのおつきあいは、先生が大学院博士課程の学生生活を終えて、昭和60年に専修大学商学部任教員として赴任された時以来ですね。私は、商学部助手として先生よりも2年ほど早く専修大学に入職しておりましたが、同僚の親しい先輩教授から、「来年度から、経営学の研究者で、赤羽さんという国際派の先生がお見えになるよ」と話してくれたことをよく覚えています。

私が先生のお人柄に最初に接したのは、先生が専修大学に入職したての夏に温泉地で教員組合が開催した定期総会の折り、旅館で同室となったときであったと思います。そのとき、先生は自己紹介を兼ねた私の世間話を物静かに、にこにこしながら聞いて下さいました。そこで味わった、ゆったりとした時間の流れは、今でも忘れることはできません。

先生の研究分野は現代経営者論で、21世紀のグローバリゼーションという環境のもと、あるべき企業経営者の姿を追い求めるというものでした。平成17年には、先生の母校の明治大学に請求された博士（経営学）の学位論文「国際企業経営者論—管理組織論を中心として—」も出版されました。そのころ、たまたま大学に向かうバスに乗り合わせた際に、先生は、「これまでの研究をなんとか形にできた」と達成感を得たような表情でおっしゃっておられました。

大学でお会いした際には、「いかがですか、調子は？」と気さくにお話くださった先生のお声が、もう聞けないというのは、本当に信じられないことです。

2年前に私が商学部長となり、役目柄、先生が難病と格闘しておられたことを知りました。ちょうど今年の今頃、先生は私の自宅に電話をしてこられ、「商学部の役に立てず、本当に申し訳ありません」と自らをお責めになりました。それに対し、「今は、何も遠慮せず、病気からの回復に専念し、また元気な姿で復帰してください」と申し上げたのが先生との最後の会話となりました。しかし、今はもう「先生、ご家族のためにも、よく頑張りましたね」と申し上げたいです。

どうぞ安らかに眠り下さい。そして商学部の今後をお守り下さい。合掌

2015年10月

専修大学商学部長 佐々木 重人